

『純粋なファンタジー』の力：腐女子の間の遊びと親密性

パトリック・ガルバレス/Patrick W. Galbraith

Slide 1: Introduction

こんにちは！ガルバレス・パトリックと申します。アメリカのデューク大学で、文化人類学を専攻しています。このような場所でお話できる機会を頂けて光栄に思います。今日の私の発表は、漫画そのものについてではなく、それを製作し、消費し、共有する人々に焦点を合わせてお話ししたいと思えます。私が注目していること点は、社会的あるいは個人的なレベルでの、このような人々が形成する人間関係、そして消費する商品との関わりであり、また、それによって何が可能になるか、という点です。発表のタイトルは「腐女子：現代日本で逸脱した親密性を探る人々」となります。よろしくお願いたします。

Slide 2: Who are fujoshi?

「腐女子」という言葉はもう一般的にも知られるようになりまし、ここにいらっしゃる皆様はすでに「腐女子」とは何を指すか、ご存知かと思いますが、ここでは私の定義を簡単に紹介させていただきます。「腐女子とは何か？」

Slide 3: Who are fujoshi?

腐女子はその文字通りに読むと「腐った女子」となります。「ふじょし」という言葉は「婦人」の「婦」を使った「婦女子」という言葉と同音異義語となっています。では、彼女たちはどのように「腐って」いるのでしょうか？

Slide 4: Who are fujoshi?

彼女たちは「やおい」というジャンルの作品を好むことから自分たちを「腐った」と表現します。「やおい」とは、既存のアニメ・漫画・ゲームに登場する男性キャラクター同士を恋愛関係として描いた作品であり、英語圏の「スラッシュ」とほぼ同じような意味になります。1970年代に多く書かれた「少年愛」作品や現代の「ボーイズ・ラブ」、あるいはBL漫画と比べて、「やおい」というジャンルには遊び的な要素が強く、それは「ヤマなし・オチなし・イミなし」の頭文字を取って「やおい」という単語の成り立ちから見てもわかります。腐女子は既存の男性キャラクター同士の恋愛物語を好むことから、自らの趣味を「腐った」と表現するのです。

Slide 5: Otome Road

腐女子に関する言説は、BL市場が活性化した2000年代半ばから広まりました。最初のターニングポイントは、2004年5月に雑誌『ぱふ』が、池袋を腐女子たちがたむろする「乙女ロード」と命名したことでした。

Slide 6: Fujoshi book

また、2006年に出版された杉浦由美子著『腐女子化する世界』や、それに先立って雑誌『AERA』に掲載された記事も腐女子言説の形成を先導しました。

Slide 7: Fujoshi image

今では、腐女子はネットや出版の媒体を問わず、アニメ、小説、テレビドラマや映画にまで登場するようになり、存在感を増してきています。例えば、漫画「となりの隣の801ちゃん」はベストセラーにもなりました。

Slide 8: Fujoshi image

これらの言説が示していることは、腐女子はどこにでもいる、いわゆる「普通の女性」であると同時に、美しい男性に関してはとてつもない想像力を発揮するということです。「となりの隣の801ちゃん」では、隠された想像力が801ちゃんとなって普通の女の子の中に潜んでいるというふうに描かれています。

Slide 9: Who are fujoshi?

腐女子とは熱心なやおいあるいはBL読者であると定義しました。腐女子は物語よりもキャラクターに魅力を感じており、また腐女子のキャラクターとの関わり合いあい方には遊びの要素が強いという点を仮説として挙げておきます。また、腐女子の本棚には印刷された漫画が並び、彼女たちは日々同好の士によるサイトを巡回するため、「熱心さ」も注目すべき点でしょう。多くの腐女子がそれぞれの好きなキャラクターに関する同人誌を製作・消費もしています。

Slide 10: Introduction to fieldwork

私は2006年から2007年にかけて、東京で18歳から25歳の20人の自らを「腐女子」と認識する女性を対象にフィールドワークを行いました。ネットワーク分析を行うためにスノーボールサンプリングを行い、彼女たちの人間関係も観察・分析しました。結果、必ずしも代表的な集団とはいえませんが、対象者は中産階級の女子校に通った女性の集団となりました。彼らは腐女子としての活動を子供のコードとして、また家や職場での仕事を大人のコードとして、バランスを取って生活をしています。大多数が一人暮らしのヘテロセクシュアルの独身女性です。

Slide 11: How do informants define?

彼女たちは「一般人」に対して自らを「腐女子」を定義し、腐女子には豊かな想像力とやおいへの興味、また萌えの感覚を持っていることが不可欠だとしました。「萌え」とは、現在多くの人が定義しようとしていますが、簡単に言うとキャラクターに対する好意的な、心地良いと思う反応のことです。また、特定のキャラクタータイプやパターンなどによって引き起こされるものでもあり、その反応を引き起こすものに対して魅了されるという意味もあります。あるインフォーマントは、「一般人は萌えがないから、恋愛が萌えの代わりになる。腐女子にとって萌えは完全に恋愛とは別もの」と説明しました。

Slide 12: What do they imagine?

やおいや腐女子にとって「純粋なファンタジー」です。斎藤環によると、それは意図的に日常生活から分離されています。一例として、腐女子の中には自分の夫や彼氏と他の男性のやおい関係を妄想する者もいます。この「純粋なファンタジー」は現実とは分離されており、現実には存在する男性にゲイになってほしいという欲望を示すものではありません。現実と分離されているからこそ、このファンタジーは男性キャラクターを超えて広く応用可能になり、さらに腐女子のみならずヘテロ・ゲイ問わず多くの人々がそれを体験することが可能です。

Slide 13: What do they imagine?

腐女子が想像するのはクィアな空間です。ここでは「クィア」という言葉を、規範的なパラダイムを逸脱した流動性を網羅するために使っています。「イミなし」のやおいファンタジーはリー・エーデルマンの指す「生産的な将来性」についてまったく考えていません。むしろ、ここにあるのは子供の象徴的な「崩壊」です。腐女子自身は必ずしも同性愛者という訳ではなく、すべての腐女子が現実の同性愛に寛容なわけではありません。ここで私はマーク・マクレランドとシャラリン・オルバによる、やおいやBLの読者は支配的なジェンダー規範に対抗的ではないという論に賛同します。

Slide 14: Emergent patterns

この「純粋なファンタジー」には様々な可能性があるように見えますが、それとは反対にやおいやBLのファンタジーの中では規範的なヘテロセクシュアルの恋愛関係を模したパターンが繰り返されます。やおいやBLにおいては二人の男性キャラクターが攻めと受け、つまり挿入する方と挿入される方に分かれます。この役割は固定的であり、リバーシブルと呼ばれる役割の反転は例外的です。よって、やおいやBLがいかにクィアであるかどうかについて語るよりも、この攻め・受けの抽象化によって可能になる表層的な遊びの逸脱的な可能性について考えたいと思います。

Slide 15: Coupling examples

これらはすべてフィールドワークで得られた、腐女子によるやおいカップリングの例です。左下の絵はご存じの方もいるように、人気SF映画スター・ウォーズからオビ=ワン・ケノービとアナキン・スカイウォーカーのカップリングです。腐女子の逸脱した想像力のもとでは、師弟の強い絆は親密な関係として解釈され、彼らの表面に出ない感情や性的欲望が探索され、暴露されます。次に、右上の写真はアメリカのブッシュ元大統領とが日本の小泉元首相であり、日米の「特別な関係」をほのめかして、腐女子たちはニュースの写真を「萌え」画像として見るようになりました。現実の人物でもキャラクターとして客体化すると、カップリングを想像することができます。逆に、モノがキャラクターとして想像される事例もあります。左上の葛飾北斎による富嶽三十六景（ふがくさんじゅうろっけい）の神奈川沖浪裏（かながわおきなみうら）は左上から襲いかかる波が攻めとして、波に襲われる小舟を受けとして想像することができます。同様に、右下の写真では道路を踏みつける車が攻め、踏みつけられる道路が受けということになります。

Slide 16: Hetalia

同様に、戦時中のイタリアとドイツを美少年キャラクターにし、かつ枢軸国同士の絆を親密かつコミカルな関係に描き直した人気コミックもあります。

Slide 17: A new way of seeing

これらの例から示されることは、欲望の構造に対する認識と、その欲望が虚構であるという認識から生まれる新たな物の見方です。インフォーマントの一人が言うように、「腐女子は何にでも「萌え」を見出す。「萌え」を身につけるとモノの見方やモノの関係の見方や想像の仕方が変わる」のです。また別のインフォーマントは、「腐女子は豊かな妄想力で何にでもやおい妄想をすることが出来る」と言います。

Slide 18: A new way of seeing

この新たなモノやモノの関係の見方、あるいは視点を、腐女子は「腐フィルター」と言います。腐女子の「腐」をレンズなどの「フィルター」とかけた言葉です。この視点を、ウリ・マイヤーは“yaoi eye,” やおい目、あるいはやおいメガネと呼びました。この目は性的あるいはジェンダーマイノリティに対する読みのプロセスを不安定化、あるいは倒錯的にします。しかし、ここで腐女子の実際のセクシュアル・マイノリティに対する態度を積極的に政治化すべきではありません。かれらの目は個人的な遊びや楽しみに終始するものだからです。やおいにハッキリとした政治・社会的な意味が明らかにあるとすれば、腐女子にとってそれは楽しみの対象にはならないからです。

Slide 19: Neta communication

それでは、彼女たちの間でやりとりされているものとは何なのでしょう。ここでは、宮台真司が言う所の「ネタ・コミュニケーション」が行われています。ネタ・コミュニケーションでは、トピックとなる事柄よりもコミュニケーションの行動そのものが大事になります。このようなコミュニケーションはパフォーマンスと遊びの両方が含まれます。例えばカレン・ヘレクソンとクリスティーナ・ブッセが紹介したホモセクシュアルのペンギンについての議論を例に挙げて宮台を応用すると、ここではゲイのペンギンそのものについてよりも、その議論をすることそのものについて議論の参加者たちは盛り上がっていると言えます。

Slide 20: Moe communication

このように、萌えを通じたコミュニケーションはネタ・コミュニケーションであると考えられます。斎藤が言うように、かれらは自分が「萌えている」ことに対する自覚を表したりやそれを皮肉るような言い回しと共に「萌え」を表現します。その自己認識そのものが「萌え」の表現をパフォーマンスにします。確かに、腐女子はやおいにおける自らの欲望の構造に自覚的であり、さらにその欲望が虚構的な存在に対するものであることにも自覚的です。その自覚の表現は皮肉っぽく、かつ自分を笑うようなパフォーマンスなものになります。しかし、「萌え」はただの「ネタ」にはとどまらず、親密なコミュニケーションの形を創り上げることができます。森川嘉一郎が論じたように、萌えについて話すことは自らの嗜好について、他者に向けて話すことになります。これは斎藤が言うようにキャラクターを通じて話すことで、自分の趣味嗜好や感情、欲望といったものを直接的にさらけ出さないためのバリアにもなりますが、お互いの壊れやすい個人的な面を相互に共有する親密さも生まれま

す。松井みどりが“girl art”について論じるように、そこには「共感的対話」が生まれます。単純かつ無限に生産される表現の形は直感的で無邪気な感情をとらえ、かれら同士の間を感情を媒介するのです。これは論理的言語や理性的領域を省いたコミュニケーションとなります。萌えについての議論は特定のキャラクターに対する互いの欲望の共通する部分をそのキャラクターを通じて表現することであり、共有された想像の繋がりを作ることでもあります。これを私は「萌えコミュニケーション」と呼びたいと思います。

Slide 21: Moe communication graph

この図が萌えコミュニケーションの仕組みを表した図です。先ほど話したことを図式化したもので、今日は少し時間ありませんが興味のある方にはまたあとで詳しくご説明させていただきます。

Slide 22: Transgressive intimacy

萌えコミュニケーションが腐女子の間に生み出すのは逸脱的な親密性です。萌えについての議論は、他の場所や他の人とは生み出せないインテンスなやりとりを生み出し、それゆえに腐女子たちは非常に親密になります。親密な関係については、時にヘテロセクシュアルかつ夫や彼氏のいる彼女らかれら自身が自分たちのことを冗談めかしてレズビアンであるとまで言います。これは性的嗜好というよりも他の女性との強い絆を現しているものと考えます。腐女子は感情労働を現実＝男性のパートナーと、妄想＝女性の友達との間で振り分けるのです。

Slide 23: Concluding remarks

結論に代えて、本研究のリミテーションと今回扱えなかった点を述べておきたいと思います。多くのインフォーマントは若い女性でありかつ腐女子を「卒業」していましたが、腐女子は若い世代に限られるものではありません。また、「卒業」した腐女子もブログやツイッターなどで「戻ってくる」例もあります。そして「腐男子」の存在を指摘しておくことは、やおいファンタジーが女性に限られたものではないことを証明するでしょう。やおいファンタジーにおける中性的なキャラクターや同性間の親密な関係という構造は、やおいやBLを超えて男性オタク向けのメディアでもみられるようになりました。やおいのように欲望の対象物と同一化することの快楽は、シャロン・キンセラが指摘したように、男性のロリコンファンの間でも同じ構造が見られます。腐女子について特徴的だと思われることは、実は普遍的に応用可能な点が多いのではないのでしょうか。

また、逸脱的とされる親密性の中身について熟慮する必要もあるでしょう。腐男子やロリコンファンが経験する欲望やそれによる親密性と比べて、かれらの逸脱性はどうか。また、逸脱的な親密性はただ消費の楽しみを追求するにすぎないのか、それとも政治的な可能性を持つのでしょうか。それはクィアなものなのか、快楽に基づくのか、それとも浅田彰が言ったような逃走なのでしょう。欲望を「遊ぶ」時、かれらはトマス・ラマールの言うように、自分の主体性の位置をも「遊んで」いるのでしょうか。欲望や主体性の位置はプレイフルに逸脱するのでしょうか。これらの疑問は今後の研究で明らかにしていきたいと思っています。

Slide 24: Thank you!

ご静聴どうもありがとうございました。ご質問やご意見をお待ちしています。

参考文献

- Akatsuka, Neil K. 2010. "Uttering the Absurd, Revaluing the Object: Femininity and the Disavowal of Homosexuality in Transnational Boys' Love Manga," in *Boys' Love Manga: Essays on the Sexual Ambiguity and Cross-Cultural Fandom of the Genre*, Antonia Levi, Mark McHarry and Dru Pagliassotti eds. Jefferson: McFarland & Company.
- Allison, Anne. 2006. *Millennial Monsters: Japanese Toys and the Global Imagination*. Berkeley: University of California Press.
- Anderson, Benedict. 1983. *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. London: Verso.
- Aoyama, Tomoko. 2005. "Transgendering Shōjo Shisetsu: Girls' Inter-text/sex-uality," in *Genders, Transgenders and Sexualities in Japan*, Mark McLelland and Romit Dasgupta eds. London: Routledge.
- . 2009. "Eureka Discovers Culture Girls, Fujoshi, and BL: Essay Review of Three Issues of the Japanese Literary Magazine, Yuriika (Eureka)," *Intersections: Gender and Sexuality in Asia and the Pacific* (20). <<http://intersections.anu.edu.au/issue20/aoyama.htm>>
- Azuma, Hiroki, Saitō Tamaki and Kotani Mari. 2003. "Otaku, yaoi, dibutsuka" [Otaku, Yaoi and Animalization], in *Miji genron F-kai* [Networked Discourse Reformation F], Azuma Hiroki ed. Tokyo: Seidisha.
- Azuma, Hiroki. 2009. *Otaku: Japan's Database Animals*, Jonathan E. Abel and Shion Kono trans. Minneapolis: University of Minnesota Press.
- Azuma, Sonoko. 2010. "Misaki no kyōdōtai: 'Yaoi' komyūniti ni okeru renai kōdo no kinō" [Fantasy Community: The Function of the Love Code in the 'Yaoi' Community], *Shisō chizu* 5 [The Map of Thoughts, vol. 5], Azuma Hiroki and Kitada Akihiro eds. Tokyo: NHK Shuppan.
- Barthes, Roland. 1975. *The Pleasure of the Text*. New York: Hill and Wang.
- Berman, Morris. 1981. *The Reenchantment of the World*. Ithaca: Cornell University Press.
- Comic Market Preparations Committee. 2008. "What is the Comic Market?" Official Comic Market Site. <http://www.comiket.co.jp/index_e.html>
- Choo, Kuhkee. 2008. "Girls Return Home: Portrayal of Femininity in Popular Japanese Girls' Manga and Anime Texts during the 1990s in *Hana yori Dango* and *Fruits Basket*," *Women: A Cultural Review* (19:3).
- Deleuze, Gilles, and Félix Guattari. 1977. *Anti-Oedipus: Capitalism and Schizophrenia*, Robert Hurley, Mark Seem and Helen R. Lane trans. New York: Penguin.
- . 1987. *A Thousand Plateaus: Capitalism and Schizophrenia*, Brian Massumi trans. Minneapolis: University of Minnesota Press.
- Edelman, Lee. 2004. *No Future: Queer Theory and the Death Drive*. Durham: Duke University Press.
- Eng, Lawrence. 2006. "Otaku Engagements: Subcultural Appropriation of Science and Technology," Ph.D. dissertation submitted to Rensselaer Polytechnic Institute.
- Fox, Steve. 2004. "The New Imagined Community: Identifying and Exploring a Bidirectional Continuum Integrating Virtual and Physical Communities through the Community Embodiment Model (CEM)," *Journal of Communication Inquiry* (28:1).
- Fujimoto, Yukari. 1998. *Watashi no ibasho wa doko ni aru no? Shōjo manga ga utsusu kokoro no katachi* [Where Do I Belong? The Shape of the Heart Reflected in Shōjo Manga]. Tokyo: Gakuyō Shobō.
- Galbraith, Patrick W. 2009. "Moe: Exploring Virtual Potential in Post-Millennial Japan," *Electronic Journal of Contemporary Japanese Studies* (October). <<http://www.japanesestudies.org.uk/articles/2009/Galbraith.html>>

- Geertz, Clifford. 1973. *The Interpretation of Cultures*. New York: Basic Books.
- Gregson, Kimberly S. 2005. "What if the Lead Character Looks Like Me? Girl Fans of Shoujo Anime and Their Web Sites," in *Girl Wide Web: Girls, the Internet, and the Negotiation of Identity*, Sharon R. Mazzarella ed. New York: Peter Lang.
- Hatsu, Akiko. 1993. "Yaoi no moto wa 'share' deshita: Hatsu kikai: Yaoi no tanji" [The Origin of Yaoi was a Pun: First Time in Print: The Birth of Yaoi], *June* (73).
- Hellekson, Karen, and Kristina Busse eds. 2006a. *Fan Fiction and Fan Communities in the Age of the Internet: New Essays*. Jefferson: McFarland.
- . 2006b. "Introduction: Work in Progress," in *Fan Fiction and Fan Communities in the Age of the Internet: New Essays*, Karen Hellekson and Kristina Busse eds. Jefferson: McFarland.
- Hendry, Joy, and Massimo Raveri eds. 2002. *Japan at Play: The Ludic and the Logic of Power*. London: Routledge.
- Herrmann, Mareike. 1998. "'Feeling Better' with Bravo: German Girls and Their Popular Youth Magazine," in *Millennium Girls: Today's Girls Around the World*, Sherrie Inness ed. Lanham: Rowman & Littlefield.
- Jenkins, Henry. 1992. *Textual Poachers: Television Fans and Participatory Culture*. London: Routledge.
- Jones, Gretchen I. 2005. "Bad Girls Like to Watch: Writing and Reading Ladies' Comics," in *Bad Girls of Japan*, Laura Miller and Jan Bardsley eds. New York: Palgrave Macmillan.
- Kakinuma, Eiko, and Sagawa Toshihiko. 2011. "Eien no June" [Forever June], talk event held at the Yoshihiro Yonezawa Memorial Library of Manga and Subcultures, 2011 June 26.
- Kinsella, Sharon. 2000. *Adult Manga: Culture and Power in Contemporary Japanese Society*. Honolulu: University of Hawaii Press.
- LaMarre, Thomas. 2006. "Otaku Movement," in *Japan After Japan: Social And Cultural Life from the Recessionary 1990s to the Present*, Tomiko Yoda and Harry Harootunian eds. Durham: Duke University Press.
- . 2009. *The Anime Machine: A Media Theory of Animation*. Minneapolis: University of Minnesota Press.
- Matsui, Midori. 2005. "Beyond the Pleasure Room to a Chaotic Street: Transformations of Cute Subculture in the Art of the Japanese Nineties," in *Little Boy: The Arts of Japan's Exploding Subculture*, Murakami Takashi ed. New Haven: Yale University Press.
- McLelland, Mark. 2001. "Why Are Japanese Girls' Comics Full of Boys Bonking?" *Intensities: The Journal of Cult Media* (1). <<http://intensities.org/Essays/McLelland.pdf>>
- Meyer, Uli. 2010. "Hidden in Straight Sight: Trans*gressing Gender and Sexuality via BL," in *Boys' Love Manga: Essays on the Sexual Ambiguity and Cross-Cultural Fandom of the Genre*, Antonia Levi, Mark McHarry and Dru Pagliassotti eds. Jefferson: McFarland & Company.
- Mizoguchi, Akiko. 2003a. "Male-Male Romance by and for Women in Japan: A History and the Subgenres of Yaoi Fictions," *U.S.-Japan Women's Journal* (25).
- . 2003b. "Homophobic Homos, Rapes of Love, and Queer Lesbians: Yaoi as a Conflicting Site of Homo/ Hetero-Sexual Female Sexual Fantasy," paper delivered at a conference titled "Association for Asian Studies Annual Meeting," New York, March 27-30. <<http://www.aasianst.org/absts/2003abst/Japan/sessions.htm>>
- . 2007. "Mitsuryoku no potensharu: Rezubian, feminisuto, janru toshite no yaoi" [The Potential of Delusional Power: Yaoi as a Lesbian, Feminist Genre], in *Yurika: Fujoshi manga taikai* [Eureka's Fujoshi Manga Compendium]. Tokyo: Seidosha.
- . 2008. "Reading and Living Yaoi: Male-Male Fantasy Narratives as Women's Sexual Subculture in Japan," Ph.D. dissertation submitted to University of Rochester.
- . 2009. "Theorizing Comics/Manga Genre as a Productive Forum: Yaoi and Beyond," paper delivered at a conference titled "Comics Worlds and the World of Comics: Scholarship on a Global Scale" held in Kyoto, December 18-20.

- Morikawa, Kaichirō. 2003. *Shuto no tanjū: Moeru toshi Akihabara* [Learning from Akihabara: The Birth of a Personapolis]. Tokyo: Gentisha.
- Nagaike, Kazumi. 2003. "Perverse Sexualities, Perversive Desires: Representations of Female Fantasies and Yaoi Manga as Pornography Directed at Women," *U.S.-Japan Women's Journal* (25).
- Orbaugh, Sharalyn. 2010. "Girls Reading Harry Potter, Girls Writing Desire: Amateur Manga and Shōjo Reading Practices," in *Girl Reading Girl in Japan*, Tomoko Aoyama and Barbara Hartley eds. London: Routledge.
- Pagliassotti, Dru. 2010. "Better Than Romance? Japanese BL Manga and the Subgenre of Male/Male Romantic Fiction," in *Boys' Love Manga: Essays on the Sexual Ambiguity and Cross-Cultural Fandom of the Genre*, Antonia Levi, Mark McHarry and Dru Pagliassotti eds. Jefferson: McFarland & Company.
- Pesek, William. 2007. "Don't Shrink from the Test," *The Standard* (February 13).
<http://www.thestandard.com.hk/news_print.asp?art_id=38176&sid=12187367>
- Probyn, Elspeth. 1996. *Outside Belongings*. London: Routledge.
- Pflugfelder, Gregory M. 2005. "'S' is for Sister: Schoolgirl Intimacy and 'Same-Sex Love' in Early Twentieth-Century Japan," in *Gendering Modern Japanese History*, Barbara Molony and Kathleen Uno eds. Cambridge: Harvard University Press.
- Radway, Janice. 1984. *Reading the Romance: Women, Patriarchy, and Popular Literature*. Chapel Hill: University of North Carolina Press.
- Saitō Tamaki. 2007. "Otaku Sexuality," in *Robot Ghosts and Wired Dreams: Japanese Science Fiction from Origins to Anime*, Christopher Bolton, Istvan Csiscery-Ronay Jr., and Takayuki Tatsumi eds. Minneapolis: University of Minnesota Press.
- . 2008. "Moe no honshitsu to sono seisei ni tsuite" [The Essence of Moe and its Genesis]. *Kokubungaku* [National Literature] (53:16).
- Sakakibara, Shihomi. 1998. *Yaoi genron* [An Elusive Theory of Yaoi]. Tokyo: Natsume Shobō.
- Shiburin. 2008. "Siziteki komyunikeshon toshite no moe" [Moe as Creative Communication]. *Kokubungaku* [National Literature] (53:16).
- Stanley, Mami. 2010. "101 Uses for Boys: Communing with the Reader in Yaoi and Slash," in *Boys' Love Manga: Essays on the Sexual Ambiguity and Cross-Cultural Fandom of the Genre*, Antonia Levi, Mark McHarry and Dru Pagliassotti eds. Jefferson: McFarland & Company.
- Sugiura, Yumiko. 2006a. *Fujoshika suru sekai: Higashi Ikebukuro no otaku onnatachi* [Fujoshi-izing World: The Otaku Girls of East Ikebukuro]. Tokyo: Chikūron Shinsha.
- . 2006b. *Otaku joshi kenkyū: Fujoshi shisū taikai* [Otaku Girls Research: The System of Fujoshi Thought]. Tokyo: Hara Shobō.
- Suzuki, Kensuke. 2002. *Bisū suru internetto: Netto jū shakai ni nani ga okiteiru ka* [Runaway Internet: What is Happening in the Online Society?]. Tokyo: Suto Puresu.
- Thorn, Matthew. 2004. "Girls and Women Getting Out of Hand: The Pleasure and Politics of Japan's Amateur Comics Community," in *Fanning the Flames: Fans and Consumer Culture in Contemporary Japan*, William Kelly ed. Albany: State University of New York Press.
- Ueno, Chizuko. 1998. *Hatsujū sichi: Erosu no shinario* [The Mating Device: Scenarios of Eros]. Tokyo: Chikuma Shobō.
- Vincent, Keith. 2007. "A Japanese Electra and Her Queer Progeny," in *Mechademia 2: Networks of Desire*. Frenchy Lunning ed. Minneapolis: University of Minnesota Press.
- Welker, James. 2006. "Beautiful, Borrowed, and Bent: 'Boys' Love' as Girls' Love in Shōjo Manga," *Signs: Journal of Women in Culture and Society* (31:3).

——. Forthcoming. "Flower Tribes and Female Desire: Complicating Early Female Consumption of Male Homosexuality in Shijo Manga," in *Mechademia 6*. Minneapolis: University of Minnesota Press.

Williams, Alan. 2010. "Raping Apollo: Sexual Difference and the Yaoi Phenomenon," in *Boys' Love Manga: Essays on the Sexual Ambiguity and Cross-Cultural Fandom of the Genre*, Antonia Levi, Mark McHarry and Dru Pagliassotti eds. Jefferson: McFarland & Company.

Yoshimoto, Taimatsu. 2007. "Otoko mo sunaru bōzu rabu" [Men Know Boys' Love, Too]. In *Yurika: Fujoshi manga taikai* [Eureka's Fujoshi Manga Compendium]. Tokyo: Seidosha.

——. 2008. *Fudanshi ni kiku* [Talking to Fudanshi]. Self-published. For sale online at http://www.picnic.to/~taimatsu/common/milk/milk_postal_taimatsu.htm